



こまくさ

平成29年
10月6日(金)
No.26

《教育目標》 ~夢に向かって やさしく! かしく! たくましく!~

一昨日のマラソン大会・なべっこは、天候との戦いでした。朝から天気図とにらめっこしたり、外に出て雲の様子を観察したりしながら実行することにしました。寒い中応援くださったご家族の皆様方、本当にありがとうございました。また、子どもたちの応援が素晴らしい大会になりました。様子や結果等は、もうひとつの金メダルが決まってからお知らせします。

前期中の色々なご協力ありがとうございました。前期最後の学校報は、生活科・総合的な学習の時間についての確認と通知票の見方を中心にお届けします。 字が厚くなってすみません…

研究を進める上で

昨年度末に文部科学省の指定校の手続きをして、生活科と総合的な学習の時間（以下総合）の研究を進めることになり、学校体制を整えたり指導計画の見直しをしたり授業研究を進めたりしてきました。今後11月14日の中間公開（本公開は来年の11月2日の東北大会）に向けて研究を加速させていく予定です。ご理解とご協力をお願いします。

保護者の皆様からのアンケートに「生活科や総合に時間をとるよりも国語や算数にもっと時間を割いて…」というご意見もありました。これについては、誤解があるようなので、説明します。研究校になったからといって、生活科や総合の学習時間が増えるわけではありません。各教科の年間に学習する時間は法律で決められています。各校では、年間の授業日数（だいたい200日前後、その年の曜日の並び方で若干変動する）と各学年の出校日数（1年と6年は入学式前や卒業式後の日数が引かれるため出校日数がやや少なくなる）、1日の学習時間（各学年でコマ数が違う）から割り出して時間割に示します。時間割の通りに学習をしていくと、年間学習しなければならない時間を上回ります。上回った時間がゆりの時間となり、台風や地震、インフルエンザなどで急に休校・学年閉鎖になっても間に合う計算になります。毎月教務主任が時数を確認していますので、もし法律で決められた時数を下回るようであれば、長期休業などに出校日をもうけて回復する計画を立てます。ですから、もし国語や算数の時間を増やしてしまえば、他の教科の時間が減ることになります。そうなるとその教科の計画時間が下回り、回復措置をとらなければ法律違反になります。年間の時数を管理しているので、指定校になっても何かを極端に増やしたり減らしたりすることはできませんのでご理解ください。

生活科や総合が新設された理由のひとつには、子どもたちの体験不足を学校で補うこと、各教科で学んだ力を総合的に生かす場面として期待されたことがあります。前にも書いたことがあります。例えばクッキーなどのお菓子作りのことを調べて作る学習をします。小麦粉、バター、卵、砂糖、塩、牛乳、水など、材料の割合を理解したり、実際に材料をはかったりするには、割合の意味を理解して、人数分の計算をしたり予算を立てたりすることができなければなりません。そして、器具の使い方として、計量カップやはかり、ガス台や流し、オーブンなどを使えなければなりません。それから、調べるために本を読んだりインターネットを使ったり、専門家に聞いたりすることも必要です。インターネットは、大人向けのサイトでは漢字が多く使われていたり、専門用語が使われていたりします。国語の時間で学んだ知識を使ったり辞典を使ったりしなければなりませんし、専門家に聞くにはコミュニケーション能力も必要です。算数の割合、比の値、計算、量りの使い方を理解していることも必要です。また、理科や家庭科で学習する器具の使い方なども身につけていなければなりません。お菓子作りをすることは、色々な教科の力を総合的に使わなければなりません。学習したことを実際の場面で体験したりうまく使ったりすることで、子どもたちが育ちます。どうぞ、入試に必要な教科だけ勉強していることが大切だとは考えないでください。人間が育つためには、色々な教科を学ぶことが必要であり、人生の中で色々な場面に役立つということをご理解ください。

通知票の見方

見方は何回も出していますので、初めて小学校にお子さんを入れた保護者の方、ご家族の方への説明だとお考えください。

通知票・通信簿と呼ばれるものは、明治時代に学校での勉強の様子を家庭に伝える手段として発行されたものです。子どもたちがどんな学習をして、どのような力がついたかを伝える手段として、明治時代からずっと変わらずにきたものです。しかし、学校によって「通信簿」と呼んだり「通知票(表)」とよんだり、様式も色々です。秋田市のある学校では、1週間の様子をファイルに挟み込み、学期末に通知票として渡していた学校もありました。「評定(1~3段階の点数)」をつけている学校もあります。

生保内小学校でも、時代によって様式が変わっています。現在のものは、去年からの様式です。夢は、子どもたちが思い描く未来の姿です。それに向けて自分が頑張ったことと、学校の約束事を自己評価します。担任は、学習や生活の様子を評価しています。子どもによっては、自分に厳しい子、甘い子がいます。ですから、必ずしも担任の評価と一致するとは限りません。大きく違う場合は、記述欄に記載しています。

「通知票こまくさ」を見ていると、今年は夢のところで「〇〇になって、みんなの笑顔を増やしたい」「〇〇になって、みんなを喜ばせたい」「〇〇になってみんなの役に立ちたい」という記載が増えてきました。子どもたちの自己有用感の高まりを感じています。いろいろと頑張っているようになった子が増えていることから、自己有用感も高まってきたのだと思います。ご家庭に通知票を持ち帰ったら、お子さんの頑張りを大いに褒めてあげてください。

詳しくは「通知票(こまくさ)について」というプリントを通知票と一緒に渡しましたので、そちらをご覧ください。

終業式は...

本日の終業式は、「修礼」「校歌斉唱」「前期に頑張ったことの作文(1年・4年・6年)」「校長の話」「生徒指導の話」「活躍紹介」でした。その後児童会の振り返りです。作文は後期が始まってから載せません。生徒指導の話は、「風見鶏」をご覧ください。素晴らしいのは「校歌」の歌唱です。金管の生伴奏を上回る声量で、しかも上手に歌える子どもたちはそうそういません。中学校と合同の芸術鑑賞会で校歌を歌いますので、10月20日(金)どうぞいらしてください。

私は、これまでの活動と夏休み中の作品・自由研究を褒めました。始業式で約束した睡眠をとって健康づくりをするということができていない子どもが多かったです。通知票の自己評価で△がついていたり、ゲームやテレビの視聴が長いというアンケート調査結果だったり、改善していかなければなりません。ご家庭のご協力をお願いします。

その後の児童会テーマの振り返りは、代表委員の皆さんがしっかりまとめてくれました。「笑顔いっぱい」が73点、「チャレンジいっぱい」が62点、「さわやかな生保内小」が60点で、全校の子どもたちからのコメントなども発表してくれました。後期、ここから点数が上がるように工夫してくれることと思います。



秋休み中の課外活動の予定です。応援よろしく申し上げます。

休み中の課外活動

10月7日(土)・8日(日)

全日本少年サッカー大会秋田県大会

会場 TDK秋田総合スポーツセンター

試合時間 10時~ 角館(VS金浦)

11時~ 田沢湖(VS明德)

10月9日(月)

小学生学年別ソフトテニス大会 9:00~

大仙市総合運動公園テニスコート

市スポーツ少年団陸競技大会 9:00~

生保内中学校グラウンド